

〔学校教育目標〕
 自ら学ぶ、心豊かでたくましい児童生徒の育成
 〔めざす児童生徒像〕
 ㊦と（他者）に優しい子 ㊧く考える子 ㊨なやかで元気な子

研究主題 学力向上を目指し、自ら学ぶことのできる児童生徒の育成
 ～主体的・対話的で深い学びを目指した授業の研究を通して～
 【仮説】 読解力の育成と表現力をつけるための取組を仕組むことで、自ら学ぶ児童を育成することができるであろう。

今年度の重点目標
 読解力と表現力を身につけ、自ら学ぶ児童の育成

〔授業改善〕
 ○読解力の育成
 ・RSTによる児童の実態を把握
 ・「長崎県読解力育成プラン」に基づいた授業
 ○表現させる場面の設定
 ・授業の中で自分の考えを「書く」場面を意図的に設定
 ・根拠を明確にして、自分の考えをもつ習慣の定着
 ・文章だけでなく、キーワードや図などを用いて説明する場面の設定
 ○多様な考えに触れさせる
 ・複式学級のメリットを生かし、他学年の考えに触れさせる。
 ・他校と交流して、多様な考えに触れさせる。

〔職員研修〕
 ・中学校と連携して研究を進める。中学校は「発想力・表現力」に視点を置き研修している。
 ・教職員は研究授業を1回は行い、全職員参観の全体授業を、小学校・中学校とも1回ずつ行う。
 ・ICT機器活用・特別支援教育研修の実施

〔学習習慣の向上〕
 ○家庭学習習慣の定着
 ・家庭学習におけるeライブラリの活用
 ・自主学習の取組
 ○望ましい生活習慣の定着
 ・「生活がんばりカード」「メディアコントロール」等の小中合同実施
 ・家庭との連携

課題	要因
<p>本校は少人数であることに加え、今年度は全国・県・市の学力調査を受けた人数がごくわずかだったため、調査結果だけの分析では、実態をつかめない。そのため、普段の授業・テスト・授業者の実感から、課題を分析した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・与えられた情報を正しく読み取り、情報をもとに思考する力が不十分である。 ・表現力豊かな文章や、構成を工夫した文章を書くことに課題がある。 ・算数において、算数的用語を用いて説明する力が乏しい。 ・既習事項の内容定着が不十分などところがある。 ・課題に取り組む態度は、個人差が大変大きい。 ・家庭学習においては、与えられた課題には取り組むものの、自主的に学びを進めたり深めたりしようとする姿勢はほとんど見られない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数のため、多様な意見や考えに触れる機会が少ない。 ・人間関係が固定されており、良い意味でのライバルがないため、向上心に乏しい。 ・児童同士がお互いを理解し合っているの、自分の思いを相手に懸命に伝えようしたり、相手を理解しようしたりする機会が乏しい。 ・基本的な生活習慣の定着の個人差が大きく、学習に向かう姿勢が整っていない児童がいる。

各学年における学力向上プラン

	課題の把握	授業改善・家庭学習
1 2 年	<ul style="list-style-type: none"> ・ひらがな・漢字の既習事項の知識・技能の定着が不十分である。 ・経験や様子、考えたことなどを、書いたり話したりして表現することに課題がある。 ・既習の計算技能の定着が不十分である。 ・算数において、単位換算の理解が不十分である。 ・算数の文章問題で、立式の誤りが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で継続して短文作りをさせる。 ・毎日継続してスピーチを行い、質問と答えのやりとりを行う。 ・家庭学習で計算カードの練習に取り組みせ、計算のスピードをつける。 ・単位換算の練習問題に継続して取り組ませる。 ・算数の文章問題では、条件と問いをはっきりさせ、答えの見積もりをさせる。線分図を書かせる。
3 4 年	<ul style="list-style-type: none"> ・表現力豊かな文章や構成を工夫した文章を書くことに課題がある。 ・主述の関係・つながり言葉・句読点の使い方等が未定着のため、書く・読むことに課題がある。 ・数学的思考に課題がある。 ・算数の知識技能（特に計算力）の定着が不十分。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作者や筆者の表現方法に気づかせ、国語（日本語）の素晴らしさを実感させる。 ・国語の書く単元では、その単元でつけた力をその後生かしていくことを、児童本人に意識させていく。 ・それぞれの児童がもつ感性・感受性・語彙力等を引き出し、他と共有させることで、自分の力として習得させる。 ・算数において、問いの内容を正しく理解させる。 ・算数において、言葉や図、補助線などを書きこみながら考えさせる。 ・授業開始時に、四則計算や短文作りを行い、知識技能を定着させる。
5 6 年	<ul style="list-style-type: none"> ・表現力豊かな文章や構成を工夫した文章を書くことに課題がある。 ・問われていることに対して、正確に答えることに課題がある。 ・数学的思考に課題がある。 ・算数の知識定着が不十分。 ・計算技能はあっても、その意味の理解が不十分。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作者や筆者の表現方法に気づかせ、国語（日本語）の素晴らしさを実感させる。 ・国語の書く単元では、その単元でつけた力を生かすことを、児童に意識させる。 ・国語辞典を活用して、語彙力を高める。 ・問いの内容を正しく理解させる。 ・算数において、言葉や図、補助線などを書きこみながら考えさせ、それらを用いて自分の考えを説明させる。 ・導き出した解答が、問いの答えとして適切かどうかの確認をさせる。 ・グラフや写真などから読み取れる内容を、明確にする。 ・授業において、思考する場面を意識的に取り入れる。家庭学習においても、思考を伴う学習課題に取り組ませる。 ・家庭学習で、継続的に自主学習に取り組ませる。児童が楽しみながら意欲的に学習に取り組めるような手立て（テーマ設定・ポイント制など）をとり、主体的に学習する楽しさを味わわせる。